

スローテンポ通信

第 13 号

2018年1月30日

発行: 一般社団法人スローテンポ協会
〒329-0403 栃木県下野市医大前 3-7-4-3F

☎ 0285-35-2888



Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

ベストセラーだけがおもしろい
とは限らない!



スローテンポ書店

営業: 10時~18時
日曜・月曜・祝日休み

☆今月の注目5冊:

- 『ジブリの授業』古川晴彦
- 『革をつくる人びと』西村祐子
- 『教えてルモアンヌ先生、精神科医はいつたい何の役に立つのですか?』パトリック・ルモアンヌ
- 『東北・蝦夷の魂』高橋克彦
- 『シリア戦場からの声』桜木武史

地域を元気にするための 懇話会

水曜日午後3時~5時、参加費無料。
誰でも参加できる意見交換の場です。

話すことは最も簡単なコミュニケーションの方法です。

若者も高齢者も、話したい人も、ただ聞きたいだけの人もどなたでも参加してください。

文章を書いてみませんか

文章は最も冷静なコミュニケーションの手段です。文章を書くことに慣れ親しめば、周囲と自分の関わりを冷静に見れるようになり、思い違いやひとりよがりにも気づきます。

1000文字程度の文章を持ち寄って、言いたいことが伝わっているかどうかを受講者どうして述べ合い確認します。

文章教室は毎週木曜日午後3時~5時、参加随時、参加費は資料代含めて、1回500円。お問い合わせは当協会まで。

なぜ本が買われなくなったか

今から30年ほど前までは、学生や読書好きの間で、自分の本棚に本を並べ、友人どうして読んでいる本をしゃべりあったものでした。自分の世界の一部を披露し「俺はこんなレベルの高い世界にいるんだぞ」と自慢して満足していたのです。

当時は高尚な本を読むことが知識人の証でした。そこに出版業界が目を付け、リビングの書棚には文学全集、歴史全集、百科事典などが並び、それがステイタスとされていました。

時代は変わり、インターネットで情報がいくらでも手に入るようになりました。企業や団体などの宣伝、勧誘が氾濫してきたことも重なって情報過多と言われるようになります。

人はその情報が自分にとって必要か不要かを即座に仕分け、不要な情報はどんどん捨てなければなりません。情報を溜め込む意味はなくなりました。

特定の情報が必要なときはネット検索をすればすぐに得られます。情報の整理された本が読みたければ、近くの図書館に行けばタダで読めます。少し専門的な本も、必要に迫られたときにネット書店で検索し、注文すれば数日以内に届きます。

従って、本を自分のものとして抱え込む必要性はなくなりました。読まない本が部屋にあっても返って邪魔になるだけです。

蔵書は遺産にもならず、残された家族は処分に困ります。家族は平気で「死ぬ前に本を処分しておいてちょうだいよ」と言います。

自分の本を持つことは、なんの役にも立たないのでしょうか。

読書の現代的意味については、以前触れました。簡単に振り返れば、「読者とは、著者が描く独自の世界や著者独特の思索の結果を、自分の意思で学びとることである。特に小規模出版社の本は、経済市場や権力の統制を受けない唯一残された大衆メディアであるから、そうした本を読むことは言論の自由を謳歌することになる」ということでした。

そのような本を通じて、貴重な世界を体得したなら、人はおのずとその本を自分の本として持っていただくものなのです。たとえ図書館から借りて読んだ本であっても、同じ本を本屋で見つけて自分の本にしたくなるのです。それはなぜか。

人間は社会的動物ですから、自分が選び自分が努力して得たものは、家族や隣人に分かちたい。読書を通じて学んだことは、子どもや友人に語りたい。例えば、本を読んで、放射線の人体への影響はこう考えればよいのだ、とわかったなら、わかったことを被曝問題を理解できない人たちに伝えたいと思うようになります。

他人にものを語るときは、自分で理解し他人にわかるように語らねばなりません。自分の知識とするには繰り返し読む必要があります。そのためには自分の本が必要となります。

いちいち自分の言葉に翻訳するのが面倒なら、ちょっと手抜きをして、さわりだけを話して「詳しくはこの本を読め」と言うこともできます。実際、書物や論文の著者はそのようにしています。

こうして、自分の本を持つことによってこそ、その本の知的ワールドを友人たちと共有することができるのです。

ここで問題は、自分に強烈な影響を与えるほどの本と出会えるチャンスがあるのかということです。

今時の書店は、経営を考えて売れ筋の本しか並べません。書店の存続を考えればそれもやむを得ず、そこに変化を求めることは無理でしょう。新聞の読書欄にしても、評判を気にする書評家たちは流行を追うような本しか紹介しません。

よい本と出会えないもう一つの理由は、友人知人の間で知的会話がなくなったことです。巷の話題はファッションやグルメ情報、本の話があっても流行を追う話や、無難で表面的な話で終わります。

では、よい本と出会いたいと願う人はどうすればよいのでしょうか。

スローテンポ書店にお越しください。流行にとらわれないおすすめの本を揃えてお待ちしております。

ついでの話ですが、他人の自慢話を長々と聞かされるのはとても苦痛です。しかし、他人が読んだ本の知的ワールドの自慢話なら興味がそそられ、そこへ入りこみたくなります。

時代が変わっても、本の話は知的ワールドを共有することにつながるのです。本が売れなくなった本当の理由は、知的ワールドの共有がなくなったからなのかもしれません。

N、ブログ『うさぎもかめも』より改変